

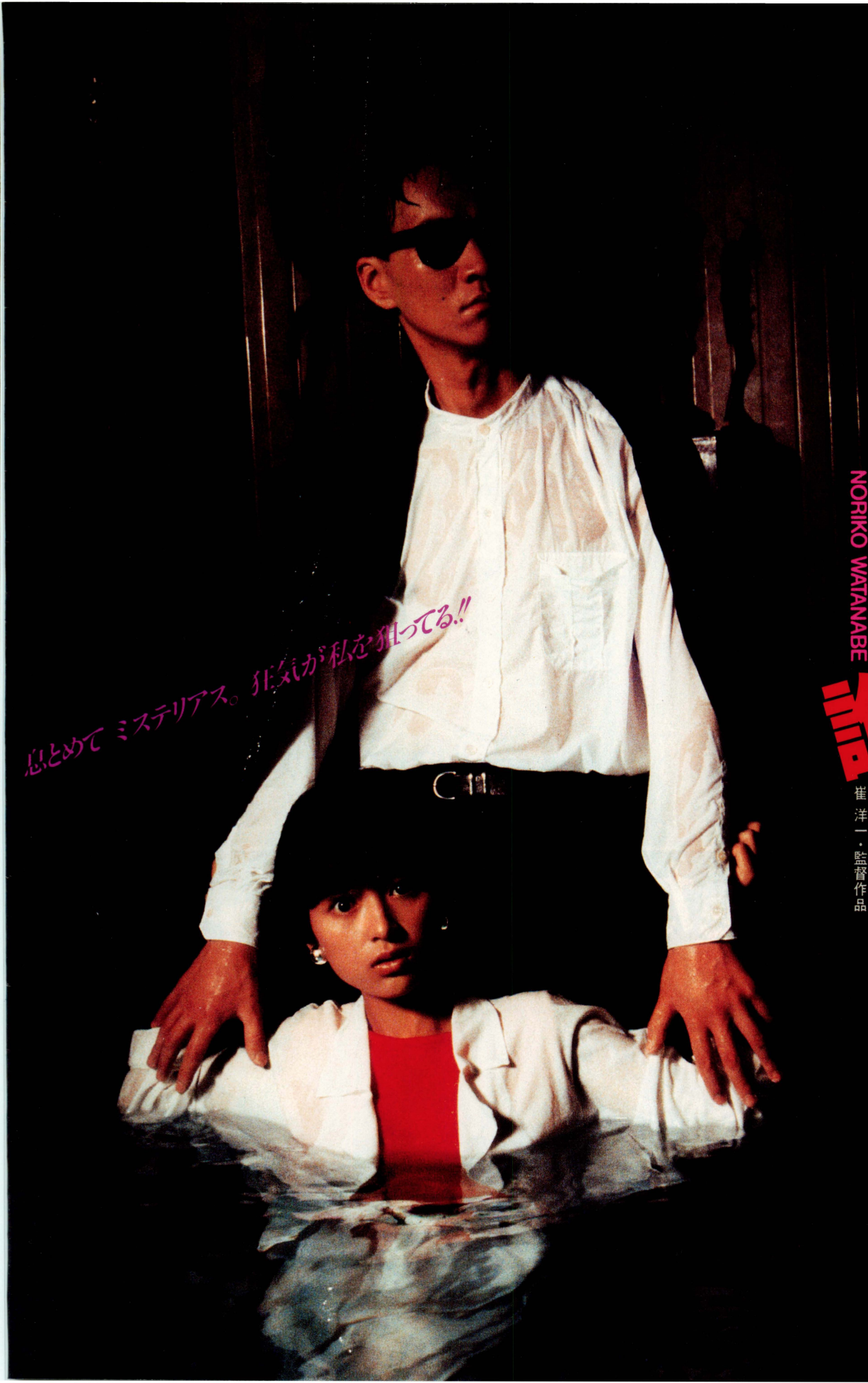
渡辺 典子
古尾谷 雅人
松原 千明
尾美 しのり
石橋 蓮司
橋爪 功
加藤 治子

製作/角川春樹
原作/赤川次郎
脚本/高田 純
撮影/浜田 毅
主題歌/渡辺典子
配給/東映
製作協力
セントラルアーツ
角川春樹事務所
東映提携作品

いつか誰かが殺される

NORIKO WATANABE

崔洋一・監督作品



息とめて ミステリアス。狂気が私を狙ってる!!



本物のろくでなし、あんたに惚れた。

麻雀放浪記

ひたすら賭けるだけだ。



負けた奴は裸になる
それがキマリだ。
あいつは俺の最後の持ち物なんだ。
惚れているから...売りとばす。

真田 広之
大竹 しのぶ
加賀 まりこ
名古屋 章
加藤 健一
高品 格
鹿賀 丈史

和 田 誠・監督作品

安全な生き方って奴は
僕も捨てちまった。
でもあの人を女郎に売るなんて
あこぎなギャンブルだ。

負けた奴は、裸になる。



和田誠監督作品 角川春樹事務所・東映提携作品

麻雀放浪記



坊や哲 真田広之
まっ白な時代に上野(ノガミ)のドサ健や出目徳と張りあい、一匹狼を気取っていた、17才の雀ゴロ。

ドサ健 鹿賀丈史
戦後派の典型的なキャンブラー。麻雀学校を開いてカモを養成する合理性と雑草の生命力をあわせ持つ男。

まゆみ 大竹しのぶ
ドサ健の女で、カベ(通し)役もする。ろくでなしの男に惚れつくすが、女郎に売られるはめになる。

オックスクラフのママ 加賀まりこ
アメリカ兵相手の秘密カジノのママ。坊や哲に自ら女を教え、お客を遊ばせるためのイカサマ技をしこむ。

出目徳 高品 格
戦前からのバクチ打ちで、イカサマ百般をこなす。「二の二の天和」で一度はドサ健を打ちのめすが……

上州虎 名古屋章
タネ銭づくりのために強盗もやるほどのバクチ好きだが、こころ一番に弱い。出目徳の手下となる。

ゼゲンの達 加藤健一
本職は「女を売る」ゼゲンだが、麻雀の腕も確か。坊や哲、ドサ健、出目徳との大勝負にのぞむ。

を捜し出して招待するというもの。子供たちの頭文字をとってモリヤアツコなる人物が選ばれ、この世に存在するかどうか賭けの対象となった。「私は存在する方に二千万円！」志津はドンと札束をテーブルの上に積み上げた……

守屋敦子(渡辺典子)、高3、18歳。楽々と偏差値69をキープし、愛車のスポーツ・バイクを走らせ、ギターも弾く活発な少女。父・陽一は新聞記者、母はいない。そんな敦子の高校最後の夏休みが始まる、うとうとしていた。

本当にひさしぶりの父とのデート。豪華なレストランで食事の後、高級ブランドが並ぶブティックで気に入った服を着付けて試着室を出た敦子の目の前から父の姿が消えていた!?

突然の父の消え方に不信を抱いた敦子は新聞社を訪ねてみるが、やはり不在。そして編集長の何やらうさんくさい態度……どうやらそれは敦子のバックに父が忍びこませていた小さなフロッピーディスクに原因がありそうなのだ。「父が私に何かを託したのだ」。そう考えた敦子はクラスメイトのパソコン少年・正太(尾美としのり)にその解読を頼む一方、父の行方を探ろうとする。

そんな敦子の周りには怪しげな人物がうろつき始める。得体のしれぬ男女、探偵らしき人物(実は永山家から派遣された探偵石橋連司)、敦子にとって東京は無気味な街となって立ちふさがる。スパイらしき連中に追われる敦子を救ってくれたのは例のブティックの店長・高良(古尾谷雅人)だった。彼がリーダーになっている無国籍グループに身を寄せせる敦子。グループの人々、梨花(松原千明)らは妙な優しさを秘めていた。

しかし、父の行方を探すことによって敦子は驚くべき事実の前に身をさらすことになる。父は国際スパイ組織の一員であることをフロッピーディスクが物語ったのだ。

敦子の、18歳のこれまでの生活は何だったのか、そしてこれからのことが待ちうけているのか。息とめて、ミステリアス。敦子のサマータイムは奇々怪々となってゆく……

解説

18歳、少しオトナのサマータイム(夏休み)は危機一髪!
'82年「伊賀忍法帖」でデビューし、「積木くずし」、そして「晴れ、ときどき殺人」と実力派の若手女優として着実な成長をみせてきた渡辺典子の主演第4弾は、スリリングなアクションとミステリーでいっぱいニュー・シネマである。

典子が演じるヒロイン・敦子はキューブでアグレティブな女の子。その彼女の夏休みにはとんでもない出来事が待ちうけている。縁もゆかりもない大財閥・永山家が毎年行っている「家族ゲーム」の標的にされて、風采のあがらぬ探偵に追い回されたり、突然蒸発してしまった父の「仕事」の関係であやしげな国際スパイ団にやバイ目にあわされたり、敦子は何が何だか分からないまま、エキサイティングな街・TOKYO中を逃げ回ることになったのだ。そんな中で出会った人たちが、彼らとかわかることにより敦子の夏休みはオトナの女へと向う貴重なステップになろうとしていた……

原作はヒット・メーカー赤川次郎の同名小説。製作は角川春樹、脚本は高田純。監督は「十階のモスキート」で鮮烈なデビューを飾った崔洋一。共演者は「丑三つ村」の古尾谷雅人、松原千明、加藤治子、石橋連司、尾美としのり、ロック歌手の白竜ら個性的な演技派がそろった。

また映画主題歌も渡辺典子が歌う「いつか誰かが……」。「少年ケニヤ」「晴れ、ときどき殺人」に続き作詞・阿木燿子、作曲・宇崎竜童のコンビ第3弾で、大ヒットが期待されている。

ストーリー

「モリヤアツコ……ゲームは始まった。アール・デコ調の大広間には身なりはきちんとしているが、どこか品位に欠ける男女が集まっている。財閥・永山家では毎年、家長である志津(加藤治子)の誕生日に一堂に会し、賭けに興じることになっている。今年の趣向は実在しているかどうか分からない人物

いつか誰かが殺される

NORIKO WATANABE



崔洋一監督作品
角川春樹事務所
東映提携作品



ボスト、手下と、敵と、この三つの人間関係しかないギャンブラーの世界。そこに友情を求め、愛を賭け、小さくても独立国であることを望んだ少年がいた。その名は「坊や哲」。

「麻雀放浪記」は、敗戦直後の東京の片隅でひたすら麻雀を打ち続け、さまざまな勝負師との出会いでもう一つの人生を学んでいく若者の物語。いわば、アウトロー社会を舞台とした「青春記」である。

原作は、阿佐田哲也の同名小説。最初の麻雀小説として昭和39年に発表されて以来、圧倒的に支持され、今日に読み継がれている。監督は、和田誠。すでに日本を代表するイラストラーターであり、エッセイ、映画評論、作曲などの分野でも第一級の才能を発揮しているが、ここでは初めて脚本も書き、映画監督としてのデビューを飾ることになった。いきさつは、原作に惚れ込んでいた同氏が私的に脚本を書いたのが発端。その脚本はカメラワークまでが指示され、絵コンテがびっしり書き込まれていた。それを見たプロデューサー角川春樹が「ここまでイメージが出来上がっているなら、自分で監督してみたら」と呼びかけ、映画監督・和田誠が誕生した。

この新人監督を補佐する形で共同脚本を担当するのが澤井信一郎。「野菊の墓」で監督としての力量もすでに定評がある。

和田誠監督の優れた映像感覚は、すでに発揮されており、その証しの一つがこの映画をあえてモノクロ作品としたこと。

撮影は、「泥の河」でモノクロの良さを実証したカメラマンである。

そしてキャストは、主役の「坊や哲」に真田広之、「道頓堀川」「里見八犬伝」の好演でいまや若手男優No.1を自他ともに認める存在が、初のアウトロー役に挑むのがみものである。さらに、哲をめぐる魅力的な男女の群像……。「ドサ健」の鹿賀丈史をはじめ、大竹しのぶ、加賀まりこなど、原作のキャラクターに迫る異色のキャストが勢揃いした。男女を問わず、年齢を問わず、すべての映画ファンに贈る秋の文芸大作である。